

# 学認クラウドオンデマンド構築サービス (OCS) とMCJ-CloudHubの概要

2025年4月23日 大江 和一

国立情報学研究所 クラウド基盤研究開発センター



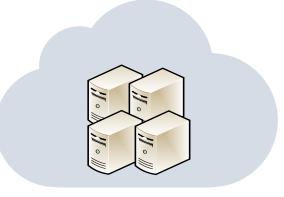
## OCSとは

### OCS提供の背景(1)

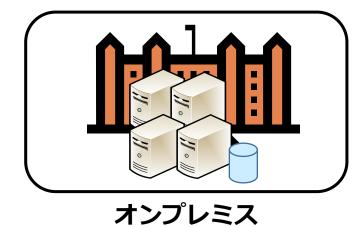


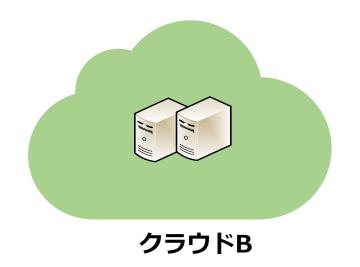
JupyterHubを用 いてPython演習環 境を立ち上げたい





クラウドA





#### OCS提供の背景(2)



JupyterHubを用いてPython演習環境を立ち上げたい

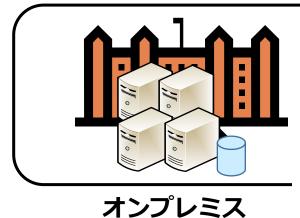
どの環境を選ぶべきか?





高速、だけど単価も高い..

クラウドA



サーバの空きが余 りない ..



クラウドB

#### OCS提供の背景(3)



構築方法もバラバラ

一度構築すると、容易に移動できない!

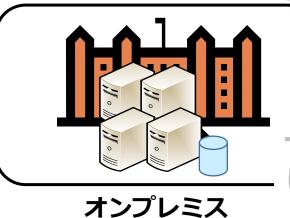
JupyterHubを用いてPython演習環境を立ち上げたい





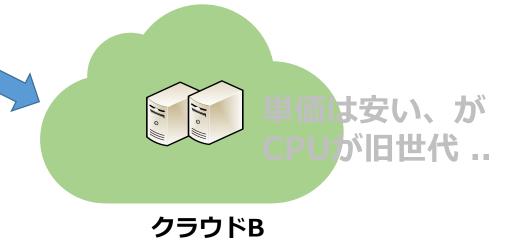
クラウドA

オンプレミス API



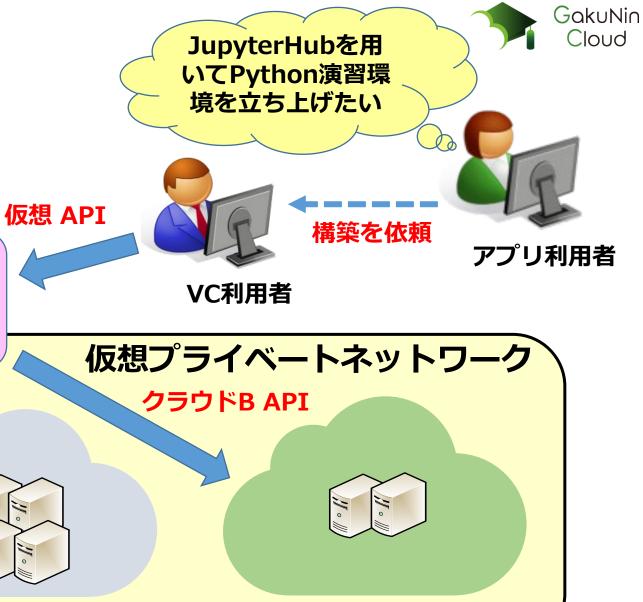
クラウドB API

サーバの空きが余りない..



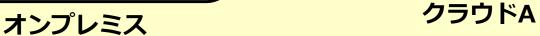
#### OCSの特徴(1)

仮想APIのみで全ての資源の操作が可能!



クラウドB







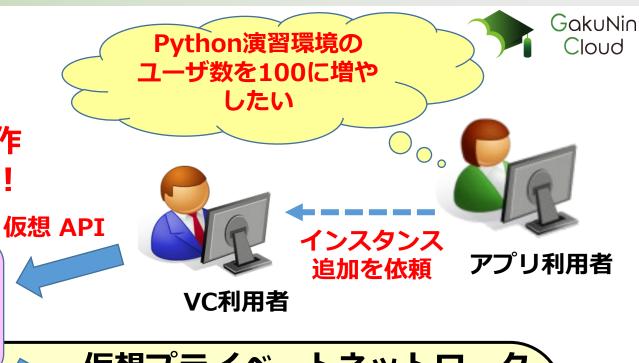
#### OCSの特徴(1)

Cloud JupyterHubを用 いてPython演習環 境を立ち上げたい オンプレミスに 仮想 API 構築を依頼 JupyterHub環境構 アプリ利用者 築! コントローラ VC利用者 <del>(20 user)</del> 仮想プライベートネットワーク オンプレミス API クラウドB API ~20 user クラウドA API jupyterhub クラウドB クラウドA オンプレミス

GakuNin

#### OCSの特徴(2)

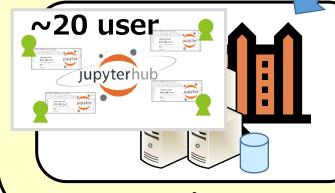
インスタンスの追加も仮想APIからの操作 でクラウド・オンプレ環境を跨いて可能!



コントローラ

仮想プライベートネットワーク クラウドB API クラウドB

Ser DE DE LA API



オンプレミス

オンプレミス API

クラウドA

#### OCSの特徴(2)

クラウドAのインスタンスを 追加してJupyterHubを運 用!

Python演習環境の ユーザ数を100に増や したい





アプリ利用者

GakuNin

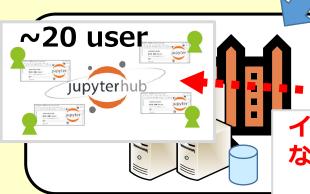
Cloud

VC利用者

仮想プライベートネットワーク



オンプレミス API



オンプレミス

クラウドA API

コントローラ

インスタンスが足ら なくなったのでクラ ウドAから補填

クラウドA



クラウドB API

クラウドB



#### OCSの特徴(3)

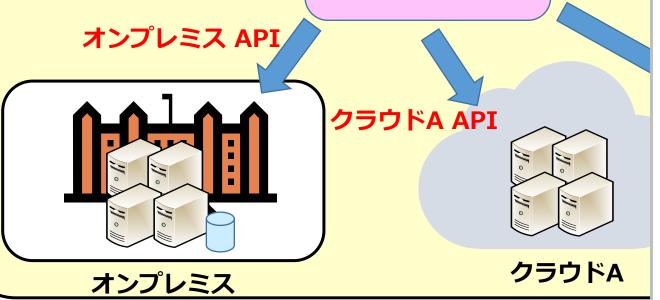


仮想APIはJupyter Notebookを介して アクセスするため、構築作業の再現性が高 い!

他者が作ったJupyter Notebook(テン

プレート)も流用可能。

コントローラ



```
■1.1 初期化Jupyter Notebookの記
                                  述例
仮想 AP<sup>▮ [1]:</sup> □
                    parameters
                     1 vcc_access_token = "c
                     2 testname = "TEST-2022-03-15"
            # [2]:
                     1 from common import logsetting
                       from vcpsdk.vcpsdk import VcpSDK
                        # VCP SDK の初期化
                     8 sdk = VcpSDK(vcc access token)
                        # VCP SDK バージョン確認
                     11 | sdk.version()
                    13 # UnitGroup作成
                    14 my_ugroup_name = "03_sample" + testname
                    16 | ugroup = sdk.get_ugroup(my_ugroup_name)
                    17 if ugroup is None:
                           ugroup = sdk.create_ugroup(my_ugroup_name)
                    vcplib:
                      filename: /home/jovyan/vcpsdk/vcplib/occtr.py
                      version: 20.10.0+20201001
                    vcpsdk:
```

#### OCSの特徴(3)



仮想APIはJupyter Notebookを介して VC利用者となる敷居は低いで

アクセスするため、構築作業の再現性が高り

(1 i

他者が作ったJupyter Notebook(テン <sup>仮想</sup>

プレート)も流用可能。

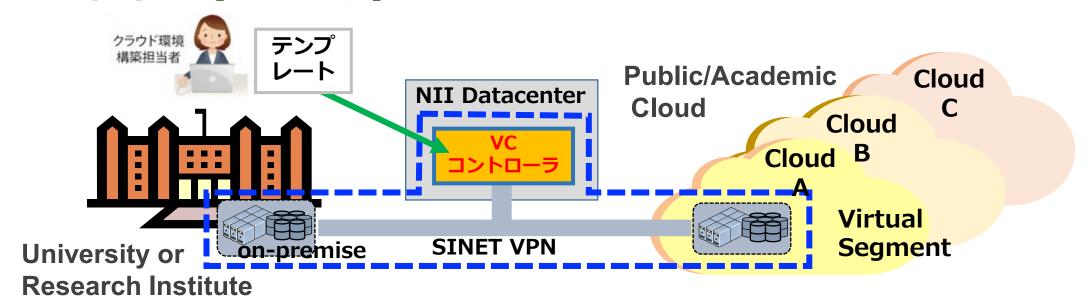
コントローラ



```
■1.1 初期化Jupyter Notebookの記
                                  沭例
仮想 AP<sup>▮ [1]:</sup> □
                    parameters
                     1 vcc_access_token = "c
                     2 testname = "TEST-2022-03-15"
            # [2]:
                     1 from common import logsetting
                     2 from vcpsdk.vcpsdk import VcpSDK
                       # VCP SDK の初期化
                     8 sdk = VcpSDK(vcc_access_token)
                       # VCP SDK バージョン確認
                    11 | sdk.version()
                    13 # UnitGroup作成
                    14 my_ugroup_name = "03_sample" + testname
                    16 | ugroup = sdk.get_ugroup(my_ugroup_name)
                    17 if ugroup is None:
                           ugroup = sdk.create_ugroup(my_ugroup_name)
                    vcplib:
                     filename: /home/jovyan/vcpsdk/vcplib/occtr.py
                      version: 20.10.0+20201001
                    vcpsdk:
```

### OCSの特徴(まとめ)



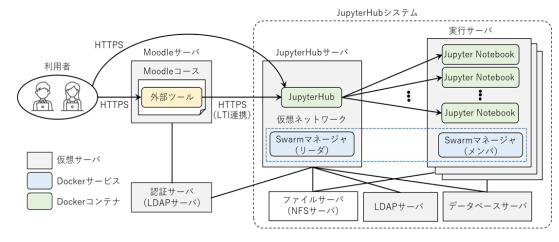


- ■テンプレートを用いて、オンプレミスやクラウド(IaaS)上にアプリケーション実行環境を構築するサービス
  - ■仮想プライベートネットワーク(VPN)内に利用する資源を囲い込み、仮想コントローラ(VCコントローラ)から操作することで、全ての資源を統一的に利用できる。
  - ■VCコントローラの操作は、可読性が高いテンプレート(JupyterNotebook)からの操作が可能。

#### 利用例 (講義演習環境)



- MCJ-CloudHubとは
  - 山口大学とNIIで共同開発した講義・演習システム
    - ■山口大学で運用していたオンプレミスシステムをOCSテンプレートから構築・運用出来るように拡張
    - ■山口大学固有設定等の一般化
- OCS+MCJ-CloudHubの特徴
  - システム管理者と利用者(教員・学生)を分離
    - ■利用者は、GUI操作のみで演習可能
    - ■システム管理者は、障害等が発生しない限り 特別なサポートは不要(年度初めに構築するのみ)
  - 特定クラウドにロックインされない
  - オンプレとクラウドを跨った環境を作れる
    - ■例、オンプレ資源が枯渇したときのみクラウドを利用



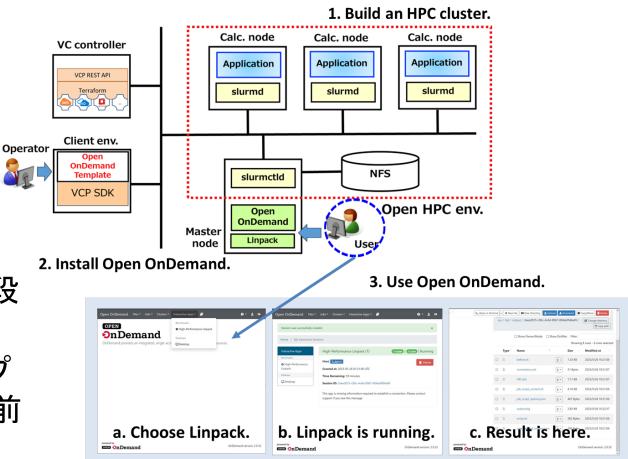
#### MCJ-CloudHubの概要

(「複数科目で共同・同時利用可能なWeb型プログラミング教育支援システムのアプリケーションテンプレート開発」より引用)

#### 利用例(HPCクラスタ)



- Open OnDemandとは
  - 概要: 初心者がHPCクラスタの前提知 識なしに機械学習などのアプリケーショ ン実行を可能とするシステム
  - 課題: 構築・運用が容易でない
- OCS + Open OnDemandの特徴
  - OCSテンプレート化することでOpen OnDemand環境を容易に構築できる手段を提供
  - 従来から提供していたOpen HPC テンプレートを用いて構築したHPCクラスタが前提





## MCJ-CloudHubの概要



#### MCJ-CloudHub開発の背景

- ■山口大学で運用中の講義演習システム
  - ■特徴
    - コンピュータシステムに詳しくない文系学部の教員・学生でも容易に利用可能で、 且つ、管理者の負担も少ない
      - ■利用者(教員・学生)は、GUIからの操作のみで演習を行える ■課題の配布・回収・採点は、GUIから全ての操作が可能なnbgraderを採用
      - ■システム管理者は情シス教員等スキルのある方を想定し、年度ごとに構築すれば運用可能な設計
  - ■課題
    - 山口大学オンプレミス環境に依存しており、他大学のオンプレミス環境やクラウド 環境での運用が難しい
- ■そこでOCSから運用・構築を可能にしたMCJ-CloudHubを山口大学と共同開発しました!
  - ■OCSアプリケーションテンプレート化することで、各機関のオンプレミス環境やクラウド環境での構築が可能に
  - ■OSSの最新化、及びMoodleとの連携方法の汎用化等も併せて実施

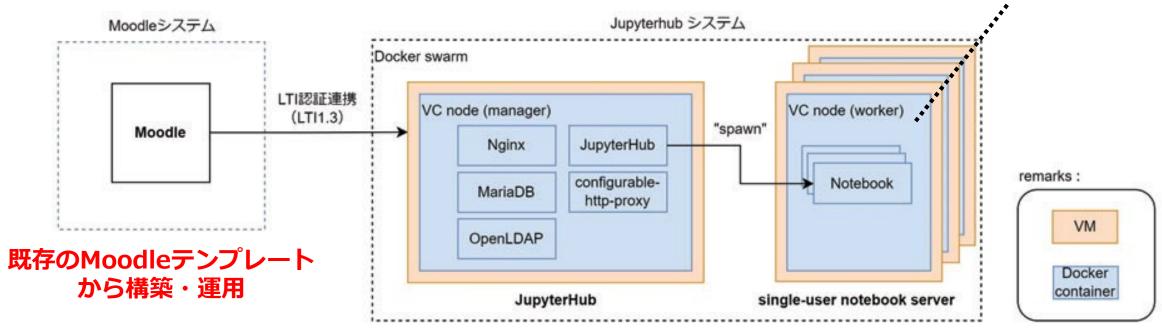
### MCJ-CloudHubの概要



https://github.com/nii-gakunin-cloud/ocs-templates/tree/master/Moodle-Simple https://github.com/nii-gakunin-cloud/mcj-cloudhub

#### 両テンプレートは上記からダウンロードできます!

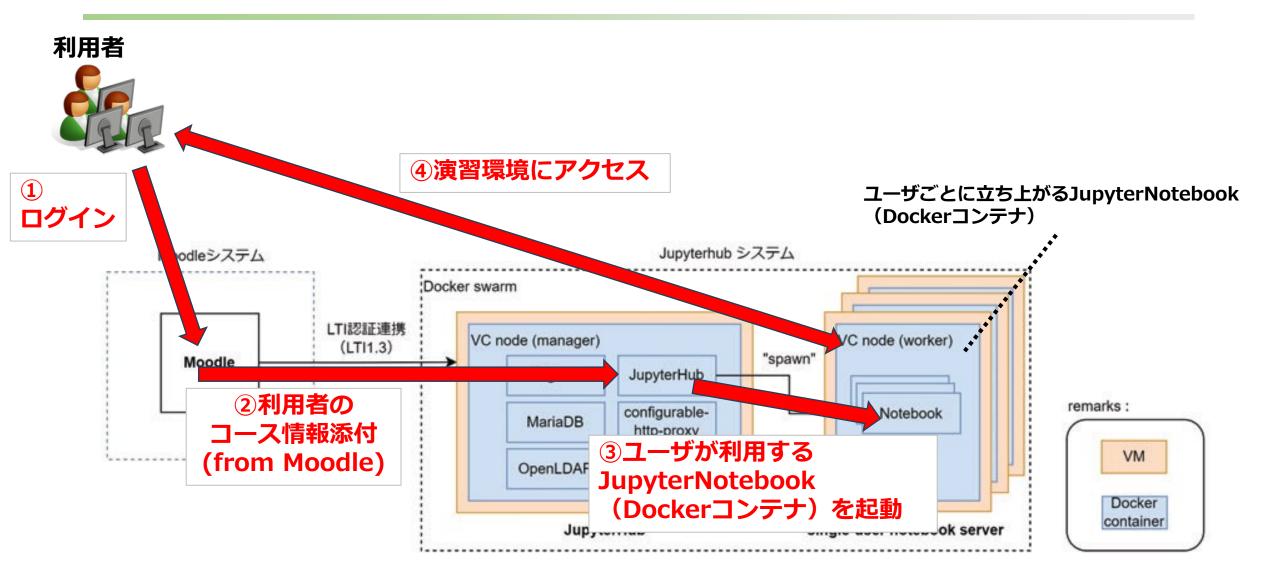
#### ユーザごとに立ち上がるJupyterNotebook (Dockerコンテナ)



新たに開発したMCJ-CloudHubテンプレートから構築・運用



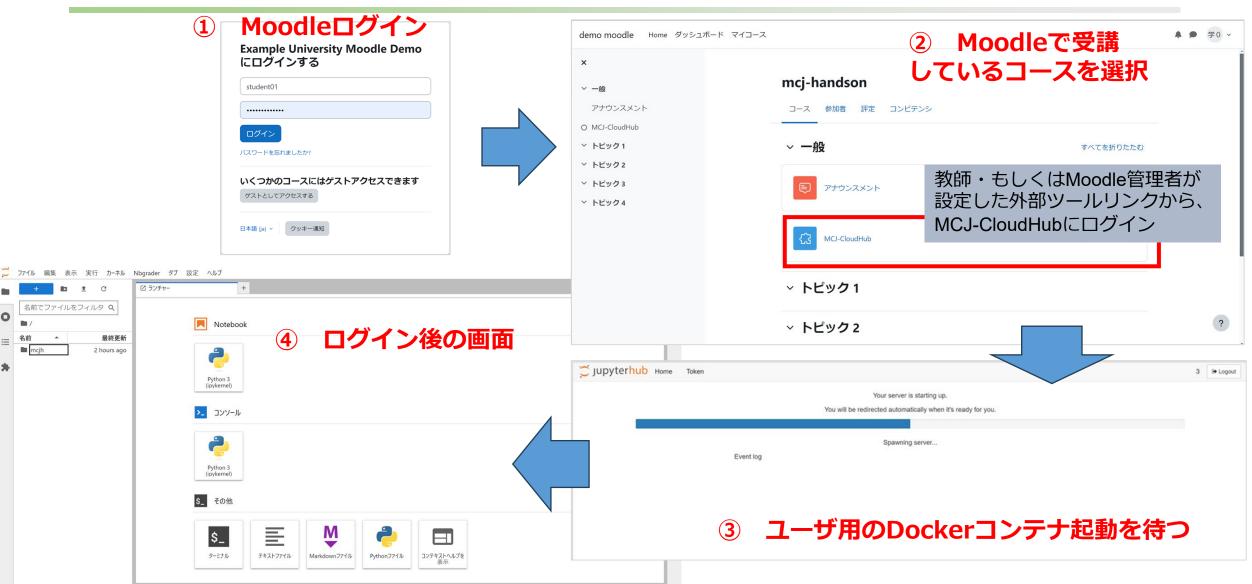
#### MCJ-CloudHubの動作フロー



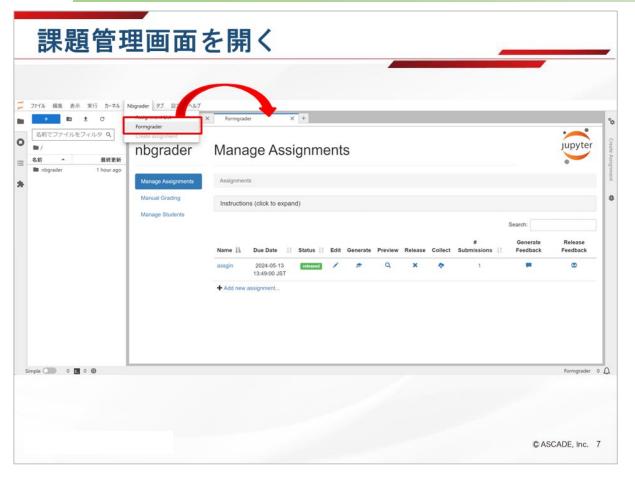


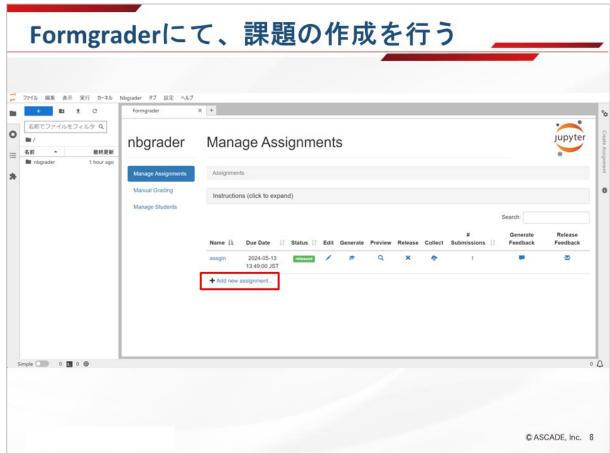
#### MCJ-CloudHubへのログイン

Simple 0 0 0 0

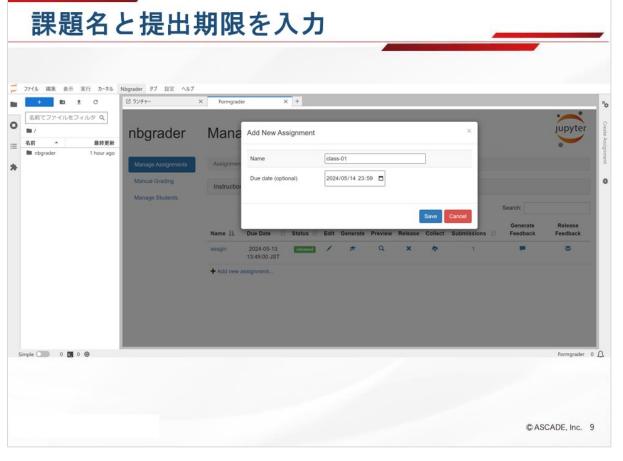


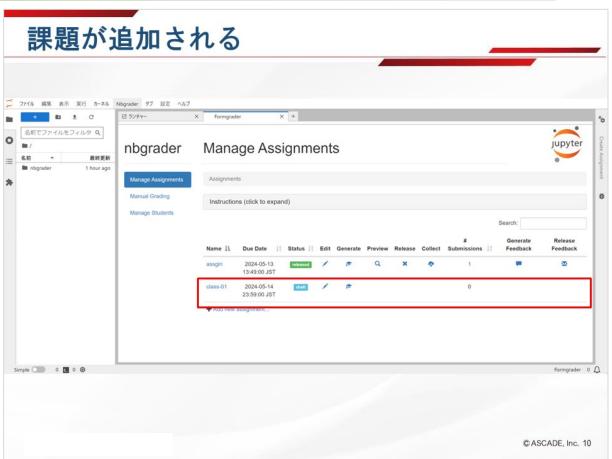




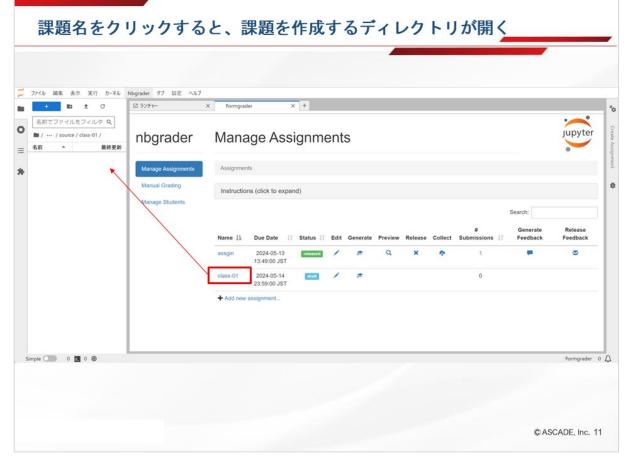


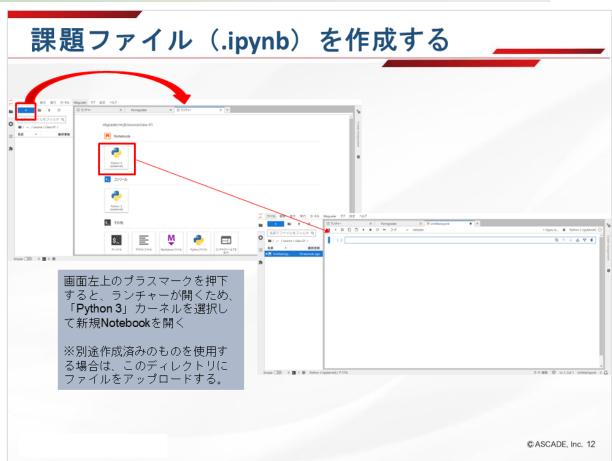




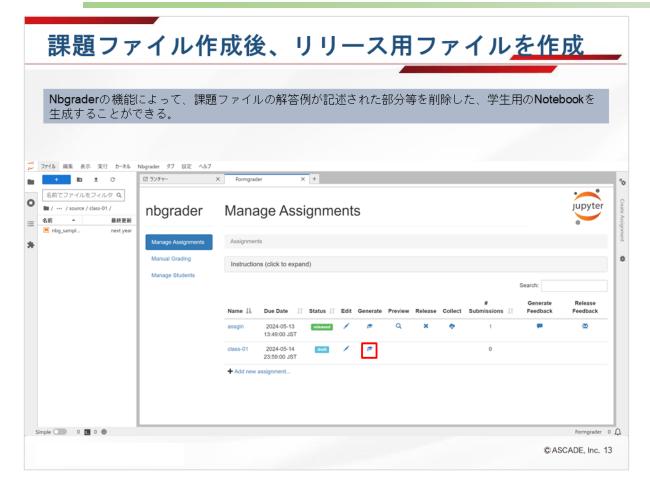


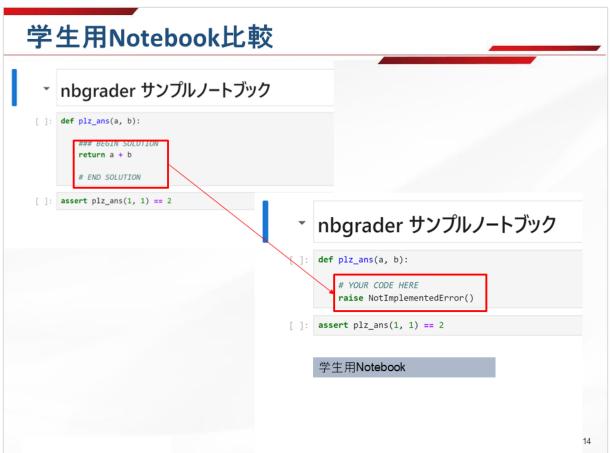




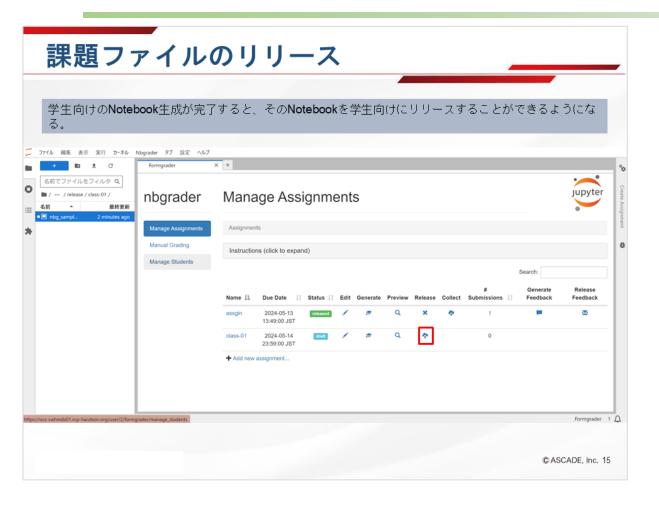








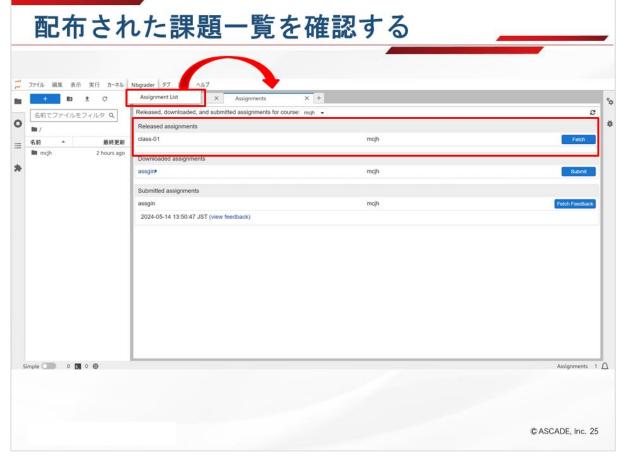


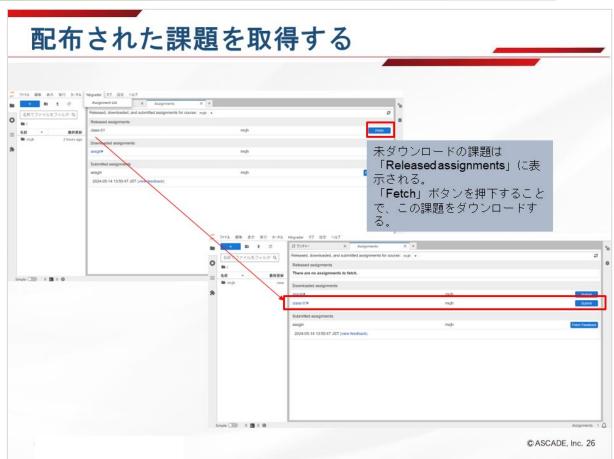


### 課題の回収・採点(自動・ 手動)もGUIからの操作で 行えます!



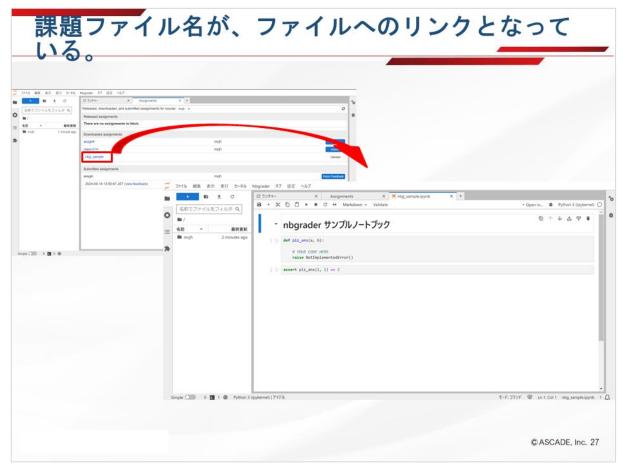
#### 課題の取得と提出(学生側)

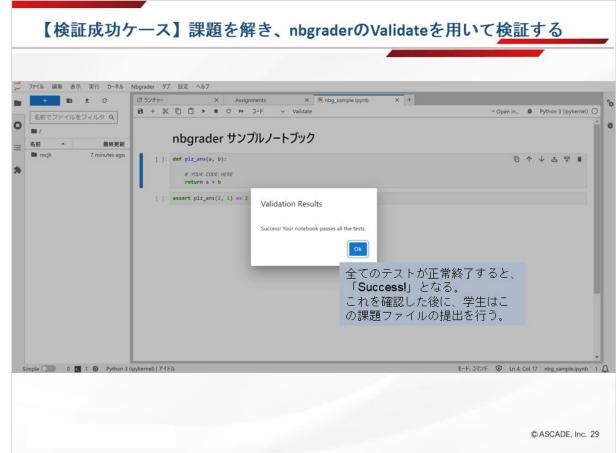






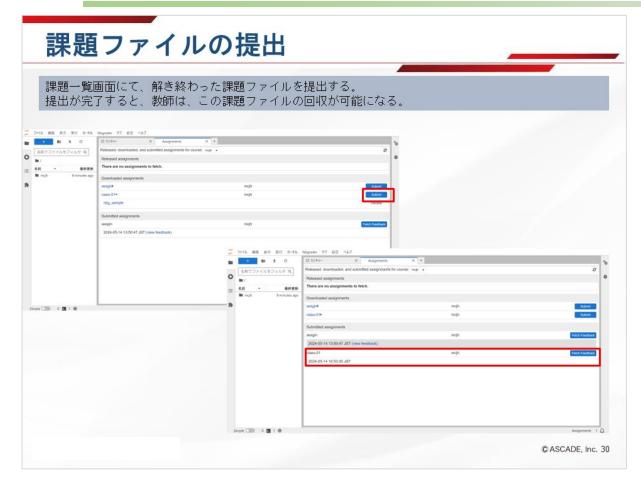
#### 課題の取得と提出(学生側)

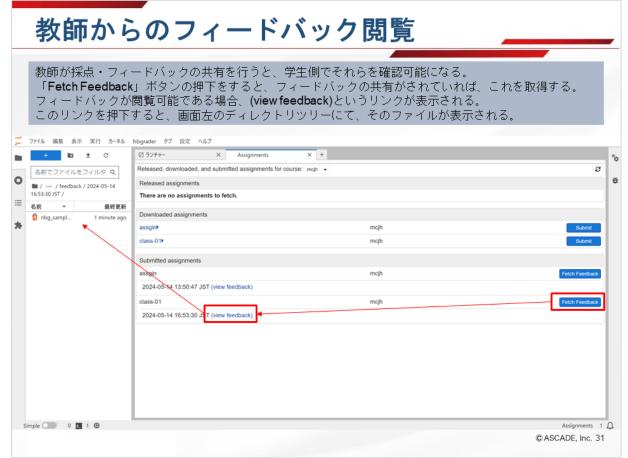






#### 課題の取得と提出(学生側)





#### まとめ



#### ■MCJ-CloudHubの特徴

- ■受講生が選択した科目ごとに統一した実行環境を提供
- ■nbgraderからの課題の配布・回収が可能
- ■Web 型であるため授業時間以外でも課題への取り組みが可能
- ■利用者(教員・学生)は全ての機能をGUIからのみで操作可能
- ■OCSから他機関のオンプレミス環境やクラウド環境での利用も可能

#### ■今後の予定

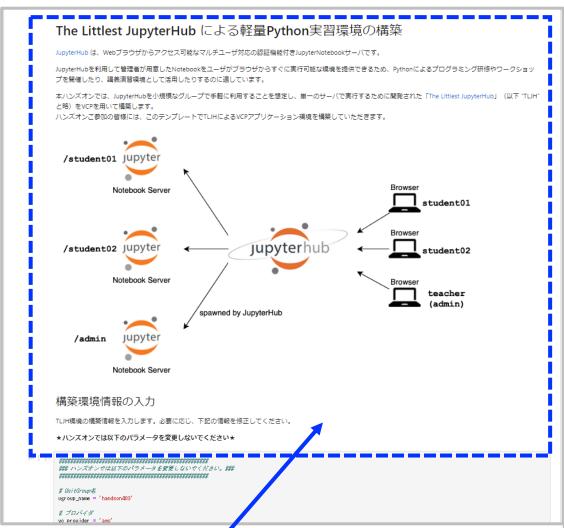
- ■MCJ-CloudHubの機能強化と試運用による品質向上
- ■ハンスオンセミナー等による他機関への利用促進活動の実施
- ■NII オープンフォーラム2025(6/16-18)の以下のトラックにてMCJ-CloudHubも取り上げる予定です。ご参加をご検討頂けると幸いです。
  - 6/18 12:30-14:00 大学の教育研究DXを支える基盤サービス



## Thank You.



# OCSの特徴(テンプレート)他者が作ったテンプレートの流用も可能 Cloud



#### 図表を組み合わせた説明を挿入できる

## **スクリプトを組み込むことができ、ここから**vcノードのspecを指定 実行できる。実行結果を残すことも出来る。

unit\_group = vcp\_create\_ugroup(ugroup\_name) spec = vcp\_get\_spec(vc\_provider, vcnode\_flavor) # spec オブション (ディスクサイズ 単位:GB) spec\_volume\_size = volume\_size # spec オブション (固定割当!Pアドレス) spec\_ip\_addresses = [fixed\_ipaddress] import os ssh\_public\_key = os\_path\_expanduser('"/.ssh/id\_rsa.pub') spec\_set\_ssh\_pubkey(ssh\_public\_key) Unitの作成とVCノードの起動 Unitを作成します。Unitを作成すると同時に VCノード (ここでは Amazon EC2インスタンス) が起動します。処理が完了するまで1分半~2分程度かかります。 # Unitの作成 (同時に VCノードが作成される) unit = unit\_group\_create\_unit('tljh-node', spec) 疎通確認 まず、ssh の known\_hosts の設定を行います。 その後、VCノードに対して uname -a を実行し、ubuntu x86 64 Linux が起動していることを確認します。起動していない場合は、spec.image に誤りがありま す。本テンプレート下部にある「環境の削除」を実行、 spec.image を修正、全てのセルを unfreeze してから、最初から再実行してください # unit group, find in addresses() は UnitGroup内の全VCノードのIPアドレスのリストを返します ip\_address = unit\_group\_find\_ip\_addresses(node\_state='RUNNING')[0] は今は1つのVCノードのみ起動しているので [0] で最初の要素を取り出す print(ip\_address) # # ssh 級定 !ssh-keygen -R {ip\_address} # "/.ssh/known\_hosts から古いホストキーを削除する !ssh-keyscan -H {ip\_address} >> "/.ssh/known\_hosts # ホストキーの登録 # システムの確認

#### TLJH (The Littlest JupyterHub) 環境の構築

VCノード上に、本ハンズオン用に用意したThe Littlest JupyterHubのコンテナイメージを使用して環境を構築します。

#### TLJHコンテナイメージの取得

Issh {ip address} uname -a

VCノード上にコンテナイメージを取得するために docker pull を実行します。

#### OCSを利用したアプリケーション配備例



■オンプレ・複数の実クラウドを跨ってのアプリケーション配備が可能!

